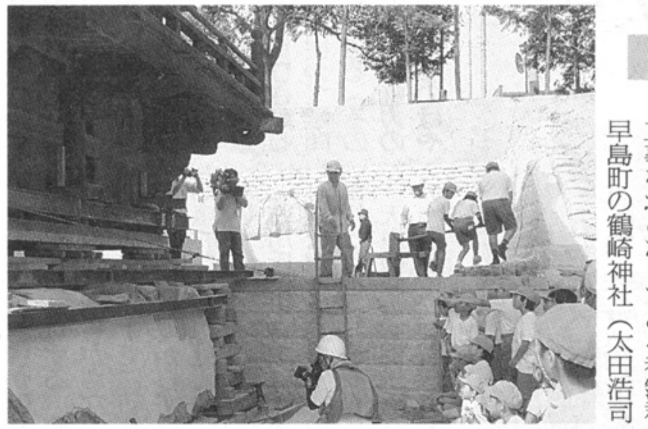
岡山・早島町
鶴崎神社

「曳屋工事」で本殿移設
地元児童ら五百人が見学



【岡山】社殿の移設・改築工事をおこなってゐる都窪郡早島町の鶴崎神社（太田浩司宮司）では、九月十日から本殿を移設する「曳屋工事」が始められ、地元の園児や小・中学生らが見学に訪れてゐる。

同神社では、拝殿の規模拡充にともなふ改築工事に先立ち、本殿を現在より約十㍍後方に移動させる移設工事を計画。すでに本殿移設地の造成工事や拝殿の解体工事を終へ、九月二日には仮殿遷座祭を斎行して移設の準備を進めてゐた。

油圧ジャッキで持ち上げた本殿を、轆轤（ろくろ）を用ゐて移動させる「曳屋工事」にあたり、同神社では「伝統工法の見学を通じて神社に親しみを持ってもらひたい」と、連日地元の園児や小・中学生など合はせて五百人を招待。太田宮司らが神社の由緒や建築物、工事の概要などを説明した。

十三日には、地元・早島小学校の五年生が見学に訪れ、実際に移設作業を体験。児童の代表者がゆっくりと轆轤を廻すと本殿が少しづつ動きだし、児童らからは「動いた、動いた！」と大きな歓声が挙がった。また、轆轤を廻した児童からは、「力を入れなくてもこんなに大きな建物が動くなんて不思議」との感想が聞かれた。

同神社では、本殿移設後に改めて解体した拝殿の改築工事が始められ、平成二十一年五月には全ての工事を終へる予定となってゐる。

（藤山知之進通信員）

神社新報　（平成十九年十月八日）

改築工事 安全を祈願
早島・鶴崎神社で上棟祭

社殿の改築事業を進めている早島町早島の鶴崎神社で五日、上棟祭が行われ、氏子や工事関係者が工事の安全を祈願した＝写真。

氏子ら約三百人が見守る中、太田浩司宮司(四七)が祝詞を上げ、工事の無事を祈願。その後、工匠と地元住民らが棟木（約六㍍）をロープで引き上げ、万歳三唱した。

工事は二〇〇七年三月に着工。今後は屋根、内装工事に着手し、〇九年九月に完成する予定。総事業費は約二億四千万円。

（鈴木麻美）

山陽新聞　（平成二十年九月六日）

神社建築主題に教養研修会開催
岡山県神社庁

【岡山】県神社庁研修所（笹井和男所長）は四月九日、県内で神職教養研修会を開き、神職約四十人が参加した。

教養研修会は、神職として身に付けておきたい内容を取り上げ、年二回程度の開催を目途に県神社庁研修所研修企画室（戸部廣徳室長）が企画した。

一回目の「神社の経理」に続き、二回目となった今回は「神社建築」をテーマに開催した。参加者は神社庁内で講義を受けた後、現在、社殿の屋根葺替へ工事がおこなはれてゐる都窪郡早島町・鶴崎神社（太田浩司宮司）を訪問。工事を手掛ける井上社寺工業五代目の井上隆正代表取締役を講師に迎へ、実際の工事現場を見学しながら講義を受けた。

（瀧本文典通信員）

▲屋根葺替工事を見学（岡山）

神社新報　（平成二十一年四月二十七日）

早島の鶴崎神社
社殿完成を祝う

老朽化で2007年3月から改築を進めていた早島町早島の鶴崎神社の社殿が完成した＝写真。

社殿は木造平屋約230平方㍍で、全国的にも珍しいという双殿造り。総事業費は約2億4千万円。

17日の竣工（しゅんこう）奉祝祭には関係者や氏子ら約100人が出席し、雅楽の音色が響く厳かな雰囲気の中、太田浩司宮司(48)が祝詞を奏上。太鼓や琴の演奏もあった。太田宮司は「多目的に活用し、地元住民に親しまれる場にしたい」と話していた。

山陽新聞　（平成二十一年十月二十二日）